

# Forest 通信



# 3

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

NO. 325

巻頭 photo

## 高尾山の生きものたち

### カラスじゃないよ!

#### カワガラス (カワガラス科) ②

巢中のヒナは20日間ほどで巣立ち、下流の淵へと流され、そこに親鳥がやって来て、写真のような微笑ましい光景が繰り広げられます。

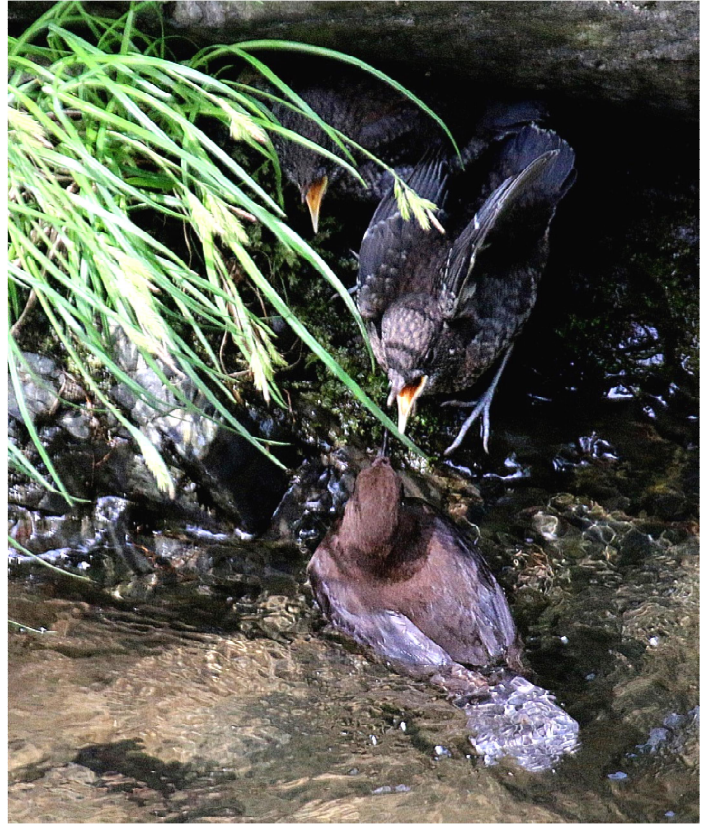
ヒナ鳥は数日間、ここの水辺で暮らした後、思い思いの場所へと移動していきます。中には巣から300mほどの水辺に移動するものもいて驚かされます。

昨冬は4羽巣立ちました。今冬もすでに親鳥のエサ運びが始まっており、何羽巣立つか楽しみです。

#### 今月の一句

「ヒナたちの 甘えるしぐさ ガンバレよ」

(フォレストサポートスタッフ 大作 栄一郎)



#### アオキ (ミズキ科)

高尾山を歩いているとよく目にする植物のひとつである。青々している葉と赤い実が対照的な色彩で美しく感じられる。

このアオキの実のエピソードで有名なのは、1690年にドイツ人のケンペルという植物ハンターが、赤い実のついたアオキにいたく感動し自国へ持ち帰ったが翌年には赤い実をつけなかった。それが、百数十年後にフォーチェンが雄株を持ち帰り、ヨーロッパで初めてアオキが赤い実を結んだ。アオキは雌雄異株で日本原産の植物です。

この赤い実に嘴(くちばし)の痕が付いたのが落ちている時がある。これはヒヨドリが食べる時にうまく嘴で啜えられなくて落としたものである。

葉は苦味健胃作用があり、民間薬の陀羅尼助(だらにすけ)に配合されている。

また、指標植物のひとつになっており、これがあるところはスギの適地とされている。ただ、最近は増えすぎて森林整備で苦労しているところもあるようだ。

赤い実は囓(かじ)るとほんのり甘い味がするが、どの木でも同じかということではなく、生えている場所により微妙に味が違っている。土壌成分なのか熟し方の違いなのかは定かではない。

最近はアオキが増えすぎたのか、アオキの実にアオキミタマバエが入った変形した実を沢山目にする。自然のなせる技なのか、熟することはない。(富)



嘴の痕があるアオキの実

# 森林教室

## 八王子市立上川口小学校

平成 28 年 2 月 16～17 日に、東京都八王子市立上川口小学校 5・6 年生 16 名の出前森林教室を実施しました。内容は校舎裏庭での炭焼きと、教室での森林学習です。

職員から炭焼きの説明を受けた後、児童は 2 班に分かれ、昨年実施した伏窯の跡を唐グワやスコップを使って窯作り（穴掘り）。窯の形が整うと、炭焼きの様子を見に来た 1 年生から 4 年生も加わり、全校生徒 49 名で材料の竹を運び窯に並べて、枯れ葉で覆ってトタンをかぶせ、その上に土をかけて窯を完成させました。



焚き口に置かれた口火を団扇であおぎ、熱を送り込む作業を交代しながら続けると、煙突から煙がモクモクと……。充満する煙の中で、皆大喜びしながら作業に没頭していました。

午後からは、全校生徒での花炭作りを体験。松かさや栗のイガを缶に入れてたき火の中に。完成した花炭に「きれ～い!!」などと驚きの声を上げていました。

その後、5・6 年生は森林のはたらきや炭についての森林学習。炭は食べられるかなど質問もでて、森林への理解を深めていました。

2 日目は、窯出し。指導が良いのか、児童ががんばったのか、沢山の炭ができました。出来上がった炭は地域のイベントで販売し、売上金をユニセフに寄付する予定だそうです。

児童達は森林教室を通じて、自分たちの周りの環境について考えるきっかけになったことでしょう。（Ⅲ）



## 多摩市立連光寺小学校

2 月 23～24 日に、東京都多摩市立連光寺小学校 5 年生 75 名の出前森林教室を、森林総合研究所多摩森林科学園が管理する連光寺実験林にて実施しました。5 年生は、総合的な学習を森林総合研究所多摩森林科学園の支援を受けて 1 年間に 8 回の野外実習を行っており、最後の野外実習を例年この時季に実施し炭焼きを体験しています。

1 日目は、炭窯の作り方の説明を受けた後、6 班に分かれ早速作業を開始。唐鍬やスコップを器用に扱い瞬間に窯を完成させ、職員の指導の下に子どもたちが準備した炭材（竹）を並べ、焚き口から団扇でかわるがわる熱風を送り込みました。早い班は、作業着手から 2 時間ほどで安定燃焼に入りました。午後は、センター職員による「森林のはたらき」と森林科学園の「雑木林の話」の講義を聴き、再び外へ出て花炭作りに挑戦しました。花炭の材料を入れた缶をたき火の中へ投入した後、楽しみにしていたおやつです。講義中にたき火の中へ投入しておいたサツマイモは甘いにおいを漂わせ、子どもたちはおいしそうにほおばっていました。



2 日目は、前日開封できなかった花炭の開封から始まりました。ふたを開けた子どもたちからは「すご～い」「あッ、壊れちゃった～」等の歓声が上がっていました。そしていよいよ炭窯の開封です。担当した職員もドキドキの瞬間ですが、各班とも思いのほか相当量の炭ができあがり、子どもたちは嬉しそうに持参した袋に詰め込んでいました。

終わりの会では、「窯を作るのに苦労した」「地球温暖化に役立てて嬉しい」等の感想が出されていました。（清）



平成 27 年度

## 森林・林業技術等

### 交流発表会開催される

#### ～高尾から 2 課題を発表～

関東森林管理局では、独立行政法人、都県、市町村、民有林関係者及び森林・林業関係教育機関等に参加を呼びかけ、地域の施行的な取組によって得られた新たな技術や知見等を多くの関係者が共有し、得られた成果を広く周知することで、地域の森林・林業の再生に寄与することを目的に、2月18日・19日の両日、森林・林業技術等交流発表会が開催され、当センターからも2課題を発表しました。

発表課題は、「『民・国連携によるふれあい推進事業』の推進について～森林インストラクター東京会との協定締結の成果と課題」(藤田富二行政専門員と森林インストラクター東京会の永井和久さん)と「蝶の写真撮影を通じて感じた高尾山の生物多様性の変化」(大作栄一郎フォレストサポートスタッフ)で、日頃から取り組まれている成果等を広く周知することができました。(か)



「『民・国連携によるふれあい推進事業』の推進について～森林インストラクター東京会との協定締結の成果と課題」を発表する藤田、永井氏



「蝶の写真撮影を通じて感じた高尾山の生物多様性の変化」を発表する大作氏

## インターンシップ

### (就業体験実習生)を受け入れ

2月15～19日にインターンシップ(就業体験実習)で大学生1名を受け入れました。

インターンシップは大学などの学生のうち、大学等から推薦された学生を対象として、関東森林管理局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として行うものです。

実習生は、東京工芸大学工学部建築学科3年生で高尾森林ふれあい推進センターの業務、特に森林教室などに興味を持って参加されました。

実習は、森林教室や林野巡視などの業務を中心に実習計画を組み、1日目は、センターや森林・林業についての基本的な説明、2日目と3日目は八王子市立上川口小学校での森林教室(炭焼き)で、実習生が教職課程も取得していることもあり、児童とコミュニケーションを取りながら初めての炭焼きと森林教室を体験していました。

4日目・5日目の林野巡視では、野生動物生息調査用のカメラの点検を行い、カメラが捉えたニホンジカが森林にもたらす影響など、森林・林業が抱えている問題点をじかに感じていました。また建築学科生ということもあり、森林ふれあい館やセンター庁舎等の木造建築物の構造にも興味をもちました。

体験終了後は、センターの業務だけではなく、森林管理全般に興味を持つとともに、森林・林業についての理解を深めてくれました。(き)



森林教室(炭焼き)で子どもたちとコミュニケーションを図る就業体験実習生

# 平成28年度 森林カレッジ受講生募集

高尾山で自然とふれあいながら森林・林業について学んでみませんか。

## 【カレッジⅠ】



日程 平成28年5月28日(土)  
内容 講義「森林の見方」  
森林散策  
講師 一般社団法人森林・自然環境技術者教育会長  
桜井 尚武 氏

## 【カレッジⅡ】



日程 平成28年7月9日(土)  
内容 講義「森に学ぶ～森づくりことづくりひとづくり」  
体験作業(下草刈り)  
講師 東京農業大学教授  
宮林 茂幸 氏

## 【カレッジⅢ】



日程 平成28年9月10日(土)  
内容 講義「木の成長としくみ」  
体験作業(間伐)  
講師 元多摩森林科学園園長  
三輪 雄四郎 氏

## 【カレッジⅣ】



日程 平成29年1月14日(土)  
内容 講義「森林の恵みと共に炭焼き、そして森の香り」  
体験作業(炭焼き)  
講師 東京大学名誉教授  
谷田貝 光克 氏

募集人数：30人(応募者多数の場合は抽選とします。)

対象者：森林・林業に興味があり、18歳以上70歳未満の健康で急傾斜地での作業や山歩きが可能な方。

申込方法：往復ハガキに、①住所、②氏名(ふりがなを入れる)、③年齢、④職業、⑤電話番号(自宅と携帯電話)を記入のうえ高尾森林ふれあい推進センター「森林カレッジ係」までお申込ください。

申込締切日：平成28年4月22日(金)

参加費等：傷害保険料として300円(4回分)程度負担いただきます。

※日程及び内容は変更する場合があります。

【お問合せ先】 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229

※お問合せは、土日祝日を除く開庁日の8:30~12:00、13:00~17:15の時間帯にお願いします。

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>



国民の森林・国営林

## 編集後記

今年度の依頼イベントもほぼ終了。多くの子どもたちに森林のはたらきを伝えることができた。と自負するイケメン講師。この間「次は誰かやってください」と言い続けてきたが、結局は一番年下のイケメンが講師を務めることになる。

来年度も、多くの子どもたちが安心・安全に体験学習を実施できるよう、職員一同研鑽し皆様のお越しをお待ちしています。(清)



## Forest 通信 No.325

発行：林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター

【ご意見、ご要望及びイベント情報のお問合せ先】

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1

電話 042-663-6689 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>